



学校だより

5月号(第08-02号)

TEL : 591-4183

令和8年5月29日

横浜市立高田中学校

校長 長谷部 宏行

【横浜市立高田中学校 学校教育目標】

ストリートスマートの育成

～学ぶことを通して、自ら課題を形成し、その課題を自ら解決し

21世紀を生き抜く力をもった人を育てる～

Do Our Best ～繋げ！！ 勝利へのバトン～

校長 長谷部 宏行

今年の体育祭のスローガンは、「Do Our Best～繋げ！！ 勝利へのバトン～」でした。

この言葉には、一人ひとりが全力を尽くすこと、そして仲間へ思いをつなぐことの大切さが込められています。

アメリカの野球選手、ベーブ・ルースは、こんな言葉を残しています。

「勝てるチームとは、失敗しないチームではない。互いに励まし合えるチームである。」

体育祭では、思うようにいかなかった場面もあったかもしれませんが、そのような中でも仲間へ声をかけたり、次の人へ気持ちをつないだりする子どもたちの姿に、大きな成長を感じました。

リレーのバトンは、ただの物ではありません。そこには「頑張れ」という応援や、「次は任せた」という信頼の気持ちが込められています。そして、その“バトン”は競技だけではなく、日々の学校生活の中にもあります。

学級での支え合い、委員会活動、部活動、そして毎日のあいさつ。誰かの頑張りが、次の誰かへつながっていくことで、学校全体が前へ進んでいきます。

体育祭で見せてくれた「全力」と「つながり」を、これからの学校生活にも生かしてほしいと思います。一人の力には限りがあります。しかし、互いに支え合い、思いをつなげていくことで、大きな力になります。

今後も、「Do Our Best」の気持ちを大切にしながら、子どもたち一人ひとりが、それぞれのバトンを未来へつないでいけるよう支援してまいります。



【第31回 高田中学校体育祭】 5月15日（金）

うっすらと広がる曇り空は、気温の上昇を優しく抑え、熱中症の心配もない絶好の「体育祭日和」となりました。心地よい風が吹き抜ける過ごしやすい気候の中、生徒たちは開会式から閉会式まで、集中力を切らすことなくすべての競技に全力で挑むことができました。

開会式直後の100メートル走では、今年度から「一人3種目まで」という新ルールが導入され、それぞれの特性や得意分野を活かした精鋭たちによる、見応えのあるレースが展開されました。誰もが自分の限界に挑み、ゴールテープを目指して大地を駆け抜ける姿は爽快そのもの。

学年ごとの全員リレーでは、バトンパスのタイミングや走順に至るまで、どのクラスも事前に綿密な作戦を練り、チームの力を最大限に引き出そうと必死でした。地鳴りのような声援を背に受け、前を走る仲間の思いが詰まったバトンを次へと繋ぐ姿に、会場全体が大きな感動に包まれました。

個性と団結力が光った学年種目

【1年生：台風の日】

4人1組で1本の長い棒を握り、遠心力と闘いながらコーンを回り疾走する「台風の日」。ただ速く走るだけでなく、陣地に戻ってきた棒をクラス全員の足元と頭上へと素早く通す場面が見どころです。タイミングを合わせてジャンプし、頭上を通過する棒をやり過ごします。はやる気持ちから息が合わずに苦戦する場面もありましたが、お互いに声を掛け合い、軌道修正しながら最後まで笑顔でやり抜く姿に、中学生としての頼もしい第一歩と、これからの大きなのびしろを感じました。



【2年生：大縄跳び】

クラスをA・Bの2チームに分け、制限時間内に跳んだ回数の合計を競う「大縄跳び」。途切れることなくリズムを刻み、跳び続けるためには、個人の技術だけでなくクラス全体の高い集中力と一体感が不可欠です。本番では、縄を回す生徒の力強い腕の振りに合わせ、全員で「いーち、に一、さーん！」と声を張り上げ、必死に縄を跳び越えていきました。引っかかってもすぐに「ドンマイ！」「まだいける！」と励まし合い、これまでの練習の成果を本番で見事に昇華させた姿からは、この1年間で培われた確かな信頼関係と精神的な成長が伝わってきました。



【3年生：お助け綱引き】

最上級生の意地とプライドが激しくぶつかり合ったのが、3年生の「お助け綱引き」です。最初から綱を引く「綱引き隊」と、スタートの合図とともに自分たちの綱に向かって猛ダッシュで加勢する「お助け隊」の連携が勝敗の鍵を握ります。合図とともに、お助け隊の生徒たちが凄まじいスピードで合流すると、綱は一進一退の膠着状態に。顔を真っ赤にし、体勢を低く低く保ちながら、全力を振り絞って綱を引く姿は圧巻でした。一步も引かない大接戦の中、勝利が決まった瞬間の爆発するような歓声と、惜しくも敗れたものの互いの健闘を称え合う姿には、最高学年にふさわしい風格と気迫が満ちあふれていました。



舞台裏を支えた功労者たち

この感動的な体育祭の舞台を、文字通り「縁の下の力持ち」として支えてくれたのが、実行委員や各係の生徒たちです。事前の予行演習での反省を活かした迅速なライン引きや用具の準備、前日の丁寧なグラウンド整備や安全確認、そして当日の臨機応変な進行アナウンスなど、自らの責任を全うしようとする姿は非常に立派でした。競技に出場している時だけでなく、自分の役割に真摯に向き合う彼らの姿があったからこそ、すべてのプログラムがスムーズに進行しました。

体育祭は、単に勝敗や競技の成果を競うだけでなく、仲間と支え合い、認め合うことで人間性を深める大切な学びの場です。生徒一人ひとりがこの充実した一日の経験を糧に、これからの学校生活でさらに大きく飛躍してくれることを確信しています。

最後になりますが、当日に温かい拍手と励ましの声援を送ってくださった保護者の皆様、そして日頃より本校の教育活動を温かく支えてくださる地域の皆様に、心より感謝申し上げます。また、予行練習から当日にかけ、放送音響等でご協力をいただきました近隣の皆様、ご理解とご協力をいただき本当にありがとうございました。

【体育祭実行委員長の言葉】

令和8年5月15日第31回体育祭が開催されました。たくさんのご声援やご協力ありがとうございました。

今年も高田中らしく、一人ひとりが輝けるような最高の体育祭を作り上げることができたと思います。私は3年間体育祭実行委員を務めており、1年生のときからずっと先輩たちの姿に憧れを持っていました。3年生になった今年は自分が後輩のお手本になれるような先輩になって全体を引っ張っていきたいと思い、委員長に立候補しました。今までの経験を活かし、1・2年生と協力しながら、準備と当日の運営を行い、無事に体育祭を終えることができました。振り返ってみると、スローガンの「Do Our Best ~繋げ!!勝利へのバトン~」の通り、練習のときから全員がベストを尽くして頑張っている姿が見られ、とても良い一日になりました。みんなの心に刻まれるような体育祭にすることができたのは全校生徒の皆さんだけでなく、先生方の協力のおかげだと思います。本当にありがとうございました。この体育祭での経験を今後の学校生活につなげていきたいと思います。



【令和8年度の放課後学び場が始まりました】

高田中学校では、本校の生徒を対象に「放課後学び場」を行っています。これは横浜市教育委員会事務局による「企業運営型による放課後学び場事業」の指定を受け、民間教育事業者（株）トライグループと高田中学校の学校・地域コーディネーターが連携して運営しています。毎週火曜日、高田中図書館と高田地域ケアプラザを会場として、次の予定表の通り学習会を開催しています。また、定期試験前の2日間も追加で開催します。学習会には事業者から派遣される講師が、生徒の日々の予習・復習やテスト対策に取り組む手伝いをします。「学習に取り組みたい気持ち、学力を伸ばしたい気持ちはあるけれど、つい後回しになってしまうから、家や学校以外で落ち着いて過ごせる場所がほしい」、「勉強が難しくなってきた、わからなくなってきたと感じている」高田中学校の生徒は一度参加してみたいはかがでしょうか。

「放課後学び場」6月・7月の予定

高田中学校図書館（第1・3・5火曜）	6/16、6/30、7/7
※高田地域ケアプラザ（第2・4火曜）	6/9、6/23、7/14
高田中学校図書館（テスト前）	6/8、6/9

※高田地域ケアプラザでの参加を希望する方は、事前に高田中学校に申込書をご提出ください。
（高田中図書館のみの参加の場合は不要です）